

第50回「水温む」「蒲公英（たんぽぽ）」または自由

5点句

発車ベルたんぽぽの群れはじつとして
惑星

特選 日曜

並選 夜桃・鮭航太・トホ

特選

慌たらしい人間の時間とは別の時間で咲きながら、発車を見送る姿がなんだかいいなあ。
(日曜)

並選

エモい情景を何度も噛み締められるような愉しみを感じる句。コレもまた字余りなかんじが逆によい。たんぽぽはキレのよい句よりもそういう鈍臭い感じが似合うのかな。
(夜桃)

現代でも発車ベルというかな？ 一昔前の田舎の光景が浮かぶ。電車通学している学生かな。電車とたんぽぽ、線路とたんぽぽは相性が良いかが、その一方でありがちなとも言える
(鮭航太)

春のタンポポの咲く駅、田舎から都会に旅

立つ青年が浮かびました。
(トホ)

4点句

空爆の美しさかな藤の棚 井沢軽

特選 鮭航太

並選 一天・惑星

予選 ナッツ

特選

空爆と藤棚のすごい組み合わせだ！
先日、友人の家の藤棚が綺麗に咲いているというので、夜に見にいった。ライトアップされた藤はとても美しく、強烈な匂いを放っていた。

無数に垂れ下がる藤は言われてみれば、空爆と重ね合わせられる事が出来る。圧倒的な災いはあるところでは美しい。傑作！
(鮭航太)

並選

空爆を美しいと言ってしまっているのかと思いつつも、魅かれました。
(一天)

空爆を体験した訳ではないけれど、何となくわかるような。

逃げる途中で見上げたら棚の藤が満開、その向こうに爆撃機？ いや、藤の垂れて咲く様子を空爆の景色に見立てた？
(惑星)

予選

気になりました
(ナッツ)

水温む遠くのカレー食べにゆき 光則

特選 琢磨

並選 茜・子牛

予選 ナッツ

特選

暖かくなってきたのでちょっと外食でもしようということだろうか。作者が選んだカレーは、どこのレストランのものだろう。いやひよつとすると、兼題をふまえるなら川そばでたべるものなのかもしれない。だとすると「遠くのカレー」はキャンブへゆくことを暗に示しているのかなと想像しながら読んだ。春になると自然を愛でたくなる気持ちは、個人的によくわかる。
(琢磨)

並選

出かけたくなる。
(茜)

お散歩の足を伸ばして遠くの美味しいカレー食べに行く、春の楽しさが伝わってきます。
(子牛)

予選

行きたくなりますね！
(ナッツ)

3点句

蒲公英や誰もいぬまま咲いたまま

井沢軽

特選 一天

並選 日曜

特選

映画のワンシーンのようで好きです。

(一天)

並選

元気な黄色と寂しさの対比が鮮やか。どこことなく原発の帰宅困難区域を想起させます。
(日曜)

水温むトラック野郎速度越え 井沢軽

並選 茜・ナッツ・琢磨

並選

なんかいい。
(茜)

るんるんですね、踏んじゃいますね。のどかな春の山道。子どものとき、父親のトラックにのせてもらったのを思い出しました。
(ナッツ)

蒲公英や焼き場の陰の日向にて 光則

特選 茜

並選 鮭航太

予選 ナッツ

特選

そうきたかという感じ。実際にみたのでしょうか。
(茜)

並選

火葬場の片隅で咲くたんぽぽ。
たんぽぽは都会でもあらゆる所で咲いている為、人間の色々な場面に入ってくる。その状況によって、タンポポの存在自体に感情を静かに揺さぶられる。
(鮭航太)

予選

きいろの生命力、すごい。
(ナッツ)

2点句

ダダカンよ庭のタンポポ摘むでない

一天

並選 ナッツ・惑星

並選

ダダカンって裸で逆立ちしたりするあのダダカンですか？ 裸でたんぽぽ摘むなんて、最高の気分でしょうね。やってみたーい。スパー自由なひとダダカンに、たんぽぽつんじゃだめー、っていつてるのがつぼりました！
(ナッツ)

サボタージュ付き合ってよねダダンデライオン
茜

並選 日曜・井沢軽

並選

自分がないこの感性に魅了されました。
(日曜)

最初は定型で語りながら、いきなり字余りを気にせずダダンデライオンとズドンとくるあたりに。往年(?)の若々しさが出る。昭和。80年代感。
(井沢軽)

たんぽぽの老いて綿毛の軽やかさ

トホ

並選 琢磨・惑星

区ノメール不審者注意水ぬるむ 日曜

並選 一天・鮭航太

予選 ナッツ

並選

ありそうな日常から非日常に。 (一天)

ぬるい水、不審者情報。

変態に違いない。こいつには注意だ。

(鮭航太)

予選

中野区おおいです。平和。 (ナッツ)

水温むウサギの草を取りに出る 惑星

並選 夜桃・子牛

並選

水辺の風景とウサギを並べただけならありきたりの取り合わせになるところを「草をとりに出る」自分が主人公になっているところが私小説的で良い。

(夜桃)

なんかのどかな春が来たなあとと思う句

(子牛)

曲がり角あの人消えて水温む 夜桃

並選 トホ・琢磨

予選 日曜

並選

春は別れの季節、でもこれから暖かくなる

(トホ)

予選

うらかな春の切ない別れ、複雑な季節です。 (日曜)

うす赤で塗る筆うごく水ぬるむ 夜桃

特選 ナッツ

特選

おでかけ気分！ って勝手にネイルかと思っちゃいました。真っ赤でなく、うす赤が春っぽいなまめかしさ、イノチ感を感じさせました。それか絵を描いてるのかなあ。どっちにしても、水彩っぽい赤はなんだか日に透けた血潮感でフレッシュです。

(ナッツ)

水温む雑巾何度も泳がせる トホ

特選 惑星

予選 井沢軽

特選

シンプルだけど、とても実感があると思いました。水温む、と言う単語と雑巾が隣り合わせなのが、少し違和感あると思ったけれど。

(惑星)

予選

昭和世代には共感できるかも。確かに学校の掃除の時間に、冬はちゃんと雑巾を洗わなかった。さらに言うとも水もあまり絞らなかつた。春は新しいクラスだし冷たくなしね。今はモップやワイパー使うのかな。

(井沢軽)

水温むおたまじゃくしにはえる足

一天

特選 子牛

予選 鮭航太

特選

懐かしい情景。単純な言葉が並んでいるだけなのに、くっきりと子供の頃を思い出させてくれました。

(子牛)

予選

我が家の睡蓮鉢には今年も蛙が卵を産み、オタマジャクシが産まれた。

今まさに足が生えてきたところである。

我が家の景とシンクロしたから思わず取ったけど、オタマジャクシも季語なので、季重なりだ。それでもいいけど、オタマジャクシに足が生える時は当然、水は温んでい

るだろうから、この季重なりは有効でない。
(鮭航太)

たんぽぽは何処でも生きるあの黄色

惑星

特選 夜桃

特選

当たり前のことを説明してるけれど、

ちよっと不思議な倒置法が新鮮で心地よい。

「たんぽぽ」とひらがなにしたのと「黄色」の漢字の取り合わせがきれい。
(夜桃)

水温むゼラチン質をつかみたく 惑星

特選 井沢軽

予選 ナッツ

特選

実際ゼリーは冷やすものだけど、これは逆。凍てついた液体からタンパク質が溶け出している感じ。質感の差異が季節の差異とリンクしていると思う。着眼点が面白い。
(井沢軽)

予選

だめよー 笑

(ナッツ)

山笑ふ我よ我よともこもこと ナッツ

特選 トホ

特選

ウチの裏山のもこもこにまさに今日心動いて、この句にキュンとききました (トホ)

蒲公英を覗きこんでる愚図の顔

鮭航太

並選 井沢軽・惑星

予選 ナッツ

並選

たんぽぽって世界を新鮮に体験していく子供たちのものだと思う。そんななか大

人になりきれない大人子どもをグズと愛しく表現しました。たんぽぽになった視点で覗き込まれている映像が浮かびました。

(井沢軽)

これあるな、自分かも。
(惑星)

予選

でへへ 自分かも。
(ナッツ)

観覧車はるかぜ揺らすふたりかな

夜桃

並選 一天・トホ

予選 ナッツ・日曜

並選

はるかぜ揺らすようなふたりは観覧車にいるの？
(一天)

観覧車って、春の乗り物だなあとつくづく。

恋するふたりの世界は揺れる、幸せな時間。

(トホ)

予選

ハッピー!
(ナッツ)

もうずいぶん昔に忘れてしまった、甘酸っぱい感性が蘇ります。
(日曜)

1点句

割れ目から笑うタンポポのぞいてる

トホ

並選 日曜

並選

黄色はスマイルの色ですね、納得。(日曜)

踏まれても馬鹿正直に咲くたんぽぽ

茜

並選 夜桃

並選

字余りなどが馬鹿正直なかんじを
よりいっそう引き出してよいですね

(夜桃)

海亀は故郷へ向かふ春月夜 鮭航太

並選 琢磨

予選 井沢軽

予選

海亀はリアルに見たことはないが、ロマ
ンのある存在。春月夜の季語とよくあって
いる。綺麗すぎるくらい。(井沢軽)

たんぽぽを手折り白濁液を嗅ぐ

井沢軽

並選 茜

並選

やるやる。

(茜)

名の知らぬ羽虫とびかふ水温む 琢磨

並選 井沢軽

予選 ナッツ

並選

虫の気持ち悪さで春のうれしさ半減です
が、ただ半分のうれしさも感じる。うわつ
いている微妙な気持ち。(井沢軽)

予選

昨日、虫柱に遭遇しました。久々。

(ナッツ)

春陰の畳の上の下着かな 鮭航太

並選 ナッツ

予選 夜桃

並選

エロティックで、端正。畳の上の気持ち
よさ、心地よさがうかびました。畳いな

あー。春の畳。

(ナッツ)

予選

最初わたしこれは下着ではなく「水着」だ
と思った笑 水着は夏の季語なのに敢えて
「春陰」と始めて、春の句としてパンチを当
てにいってるのが小憎らしくてよいなあっ
と思いましたが、よく見たら下着だった笑
風を感じる句ですね。(夜桃)

水温む人形の首落としたり 琢磨

並選 一天

予選 ナッツ

並選

ちょっと怖いけど、怖いものみたさ。

(一天)

予選

きょわいです。何の人形だろう。

(ナッツ)

水温む朝まで地球周りおり 井沢軽

並選 鮭航太

並選

時間の経過により、水が温かくなるのはわかるが、「朝まで地球周りおり」と言うとその朝を過ぎると地球の回転が止まる印象。地球が止まった。そして水は温んだまま。

(鮭航太)

水温み柔らかかに揺れほぐれだし 茜

並選 トホ

並選

水の色が暖色に変わるような、染色みたいな歌 (トホ)

水温むボーイフレンドイズベター

ナッツ

並選 茜

並選

ん? (茜)

コーラの缶たんぽぼのそばに転がりて 日曜

並選 ナッツ

並選

のどかな幹線道路わきの風景。缶コーラは実際はあんまり転がってないから、記憶の風景なのかなあ。ちょっとレトロな陽光の中の缶とたんぽぼがかびました。ドライブで車からみたのかも。信号待ちとかで。たんぽぼとか土筆見たら、うれしーですよね。

(ナッツ)

水ぬるむ冷えたワインの注ぐ音 夜桃

並選 日曜

予選 ナッツ

並選

この季節はキリッと冷えた白ワインが美味しいですね。実感が湧きます。(日曜)

予選

美味しそー! (ナッツ)

たんぽぼの綿毛しずかに離れゆく

惑星

並選 井沢軽

並選

拡大映像が浮かぶ句。新しい旅の始まりに立ち会いましたね。(井沢軽)

春の風3階から手を振ってみる 夜桃

並選 子牛

予選 ナッツ

並選

なんか春になると相方が出かける時にベランダで見送ってみたりしちゃいますよねー。わかる。(子牛)

予選

誰もいなくても。(ナッツ)

昼なかの灯台のやうなタンポポ

ナッツ

並選 夜桃

並選

昼間っからちょっとよっぱらった人が書いた句かな? って感じが良い笑 (夜桃)

蒲公英のごと吾も綿毛放ちおり 光則

並選 子牛

並選

かっこいい！ 吾もこんな自信をもって綿
毛放ちたい！
(子牛)

0点句

水温む赤いバケツの沖堤防 光則

水温み幾匹の虫招き入れ 光則

米研ぎに温んだ水の嬉しさよ 茜

山笑ふスウェーデンのうた口ずさみ ナツ

踏まれつつ気配は消さぬダンデライ
オン 茜

麦わたる南風受けて水ぬるむ 一天

予選 日曜

予選

すっと入ってくる、素直で美しい句。

(日曜)

舞い込んだ綿毛のドローン偵察隊 子牛

子牛

蒲公英の黄が綿になる風の朝 一天

一天

毎朝の犬の毛刈りて水ぬるむ 日曜

日曜

笛ふきてたんぼぼの絮おどりたる 琢磨

琢磨

蒲公英やのらにみちびかれるままに 琢磨

琢磨

鼻歌で野菜洗うや水ぬるむ 子牛

子牛

のびのびと所構わず蒲公英よ トホ

トホ

たんぼぼの綿毛残して踏まれおり 日曜

日曜

稲妻が蒲公英の綿揺らすかな 一天

一天

予選 井沢軽・ナツ

予選

スケールの大小がうまくミックスしてい
る。
(井沢軽)

カッコいい！

(ナツ)

飼い猫は日向で細目水ぬるむ 子牛

子牛

蒲公英の綿毛にのせよ夢飛ばせ 子牛

子牛

たんぼぼの種かろやかに離別して 日曜

日曜

背の高い蒲公英揺れて陽が沈む トホ

トホ

忘れゆく記憶の果てにタンポポが 鮭航太

鮭航太

若き日の憂いなきシャツたんぼぼの 子牛

子牛

予選 日曜

予選

たんぼぼのシャツってチャイミング。
ギャルソンかしら？ (日曜)

(日曜)

水温む歯の抜け落ちる夢の中 鮭航太

鮭航太

たばこなげすてる虚しさ放哉忌 琢磨

琢磨

予選 夜桃

夜桃

予選

え、「放哉忌」って季語なんですか？

知らなかった。ちなみにわたしの角川の歳
時期には載ってなかった。これについて酒
飲みながら語りあいたいです笑 (夜桃)

草の海たんぽぽ咲いて灯がともる

ナッツ

総評

「たんぽぽ」は、季題でなければ、うっか
り見過ごしていたような気がする。気がつ
いていてもよく見ていなかったかも。

「水温む」は、春っぽさを内包している
抽象的な季語なので、変わった対象をぶつ

けても受け止めるチカラがあると思った。

(井沢軽)

いつも選ぶのに手こずりますが、今回は
特に悩ましかった。特選から予選まで甲乙
つけがたく、自分の中ではすべて同点。身
近な季題のためか、素直に詠んだものが多
かった印象です。

(日曜)